

令和5年度第1回小谷村総合教育会議 会議録

○開催日時 令和5年5月11日（金）
開会：午後5時53分 閉会：午後6時30分

○開催場所 小谷村役場 204会議室

○出席者	小谷村長	中村 義明
	教育長	関 芳明
	教育長職	片山 弥生
	教育委員	深澤 和子
	教育委員	松澤 彰一

○欠席者 教育長職務代理者 太田 久吉

○職務のため出席した者 教育課長 太田 勝

1 開 会

○教育長 時間より早いですが予定された皆さまお揃いですので、令和5年度第1回小谷村総合教育会議を開会します。例年8月に1回開催していますが、必要に応じてということでもありますので、村長と教育委員の皆さんの懇談の機会となります。今日は、学校給食費の無償化についてであります。今回の選挙におきまして無償化を公約として村長が当選されておりまして、国の無償化に向けた動向等も踏まえまして、小谷村で無償化に向けて取り組みたい意向をお持ちですので、ご懇談いただければと思います。宜しく願い致します。本日、職務代理者の太田久吉さんは都合により欠席です。
では村長挨拶をお願いします。

2 あいさつ

○村長 改めまして皆さんこんばんは。教育長から話がありましたように、村長選を受けて私の公約にあげた内容でありますので、総合教育会議を開催していただきました。給食費の無償化を公約にあげて話をさせていただきますので、それを実現していきたいことを鑑みまして、まず説明させていただきます。ここを経て6月議会でこういった形にするかということを進めていきたいと思っています。今話がありましたように、国の関係もその方向に向けた提言が出ておりますので、そこへ向いていることはありますけども、私は今回公約にあげましたので、先んじて村で行えればということでもあります。

3 協 議

（1）学校給食費の無償化について

○村長 では、協議ということで学校給食費の無償化について、であります。まずお手元の「中村義明 次なる決意」という公約としてあげてチラシとしてお配りした内容のものであります。ご覧いただき2番目の項目のところに、「やっぱり小谷が大好き！宣言の村」ということで、子供たちが生き生き育つ村、特色ある教育、給食費無償化というこ

とをここで謳いました。未来を担う子供たちが、小谷村に住んでいるからこそ受けられる教育を実践し、将来の社会像にも対応できる成長を目指します、の次にあるのが給食費無償化のことについてであります。コロナ禍における子育て世代への支援をさらに手厚くします、ということです。要は無償化という形で子育て世代の皆さんの負担を減らすことで支援をしていこう、という内容を謳って参りました。実際に遊説する中でそのような形で話をさせていただきましたので、そこで今回皆さんから負託を受けたということです、給食費の無償化、所謂、子育て世代の皆さんを支援するということについて進めていきたいと考えていることです。

そこには報道等でご存じかと思いますが国の方で進めている内容があります。それについては後で教育長から説明していただけたと思いますが、与党の提言があつてそこで給食費について無償化しようという提言が出ていますので、そこについてもやっていますが、小谷村としては、私は今回そのことを公約として掲げて当選したので、皆様から負託を受けたという形になりますので、基本的には遡るのではなくて、今回6月議会に掛けて、お認めいただきましたら7月の段階から給食費を徴収しない形にもっていききたいという内容であります。内容的にはそのようなことで子育て世代の皆さんの負担をなくすという内容です。これは従前から、とある議員から給食費の無償化は行われておりまして、その時は村の方針としてはそこへもっていかない形で進めてきた内容でありますけれども、今回、私の公約と国の提言を併せてそこへ向けていきたいということです、方針をただ変えた、ということとは違う意味に捉えていただきたいと思います。

私の方は以上です。教育長から説明あればお願いします。

○教育長　少し加えさせていただきます。今までの教育委員会の中では、議会の一般質問に対して給食費の無償化について、答えとしては、一部補助をしてきた経過があつたり、親からも負担して頂くことが望ましいのではないかとということでお答えをしてきたところです。ここにきて国の動きとして、3月31日にこども政策担当大臣から公表された、こども子育て政策の強化についての試案、というものがあつた中で子育てに係る経済的支援の強化の1つとして、学校給食費の無償化というものが掲げられております。この試案については、この6月策定の「骨太の方針2023」に向けて総理のもとで更に検討を深めていくとされています。これから発表になるものですので具体的内容については今時点では示されていませんが、6月策定の予定となっています。また、議員の提出による案ということで学校給食法の一部を改正する法律案、というものも提出されておりまして、今これについては国会において衆議院で審議中という状況とみております。こういった中で今までの方向と変わってくる部分があるんですが、先ほど村長の説明した内容につきまして、教育委員の皆様もお考えがあればこの機会に是非、忌憚のない発言をいただければと思います。

もう1点、金額がどのくらいになるかということを少し説明させていただきます。お手元にある資料の一番下の合計金額とところで令和5年度単価という記載があります。これは全額村で見た場合には、小谷小で700万円余り、小谷中で430万円余り、合計で11,329,340円という金額が、村が負担する金額となります。このうち、今までも村が負担してきた分もあるので、従来分は250万円ほど補助していますので、今までより増える分として、今年で言えば882万円ほどが今までより増えることになります。また今後、給食費を値上げをしなければいけない状況があるとした場合としては、10円上がった場合には11,661,760円、20円上がった場合は11,994,180円とい

うことで、10円あがると全体で30万程度上がる見込みをしているところです。

教育委員の皆さんのご意見を伺えればと思います。

○村長 教育長から説明があったとおりです。概ね1,200万円が掛かっている状況です。それを村で負担していくということであります。お子さんのいる世帯からはその分を徴収しなくなるとお考えいただければ良いかと思います。是非お1人ずつお伺いできればと思います。深澤さんいかがでしょう。

○深澤委員 私は基本的には賛成なんですけども、先ほど教育長が言われたように、以前の議事録を調べたら令和4年9月26日の教育委員会でこの議題が出まして、議会からの一般質問が出たけど、教育長答弁では、一部補助は値上げ分の補助はしている、食事の提供ということだからそれは家庭の、親の義務というか、そういう見解で無償化はしませんという答弁したということでした。私も無償化になれば良いのにな、と思いながら色々調べたりして、やはり親が子供を育てる義務というか、扶養の義務というか、食事を食べさせて育てていく義務があるんだなと、納得したんですね自分的に。だから食事まで全部学校任せになって、無関心になるというか、給食で食べているからいいや、みたいな感じになるのがいけないのかなと思うようになりまして、納得したところなんです。もし無償化になったとして、献立作成委員会とか給食費の説明がPTA総会の時にあるんですけど、その時にみんな予算見たり、その内容にあっているか、子どもが満足しているかというのを考える場があるから、そういうのが一切なくなったら、金額のことや内容のことをチェックする機能がなくなったらどうなのかと思ったり、その時に答弁されたときに、食事を提供するの親の義務だからと言われたときに、子どもに食べさせるのも親が関心をもっているということに関して、維持できるように、給食だよりというか献立表とかは配られると思うんですけど、食育の勉強会というか情報提供というのは、今まで以上にやっていかないといけなくなるのかな、とちょっと考えました。国がやっていくことなので問題ないと思うんですけど、私はその時、親の扶養の義務に抵触することなんだと思ったので、法律的に大丈夫なのか？ とちょっと思ったりして、去年の9月の時には池田・松川が無償化を検討していると話をされていて、もうされているんですかね？

○村長 池田・松川は給食センターが共同なので、そこでちょっと足踏みしている状況があります。

○深澤委員 先にやっている事例がきっと全国的にあると思うので、法律とかにあたらないのかなと思いました。あと将来的に、国が無償化を決定して、国から予算がでるようになった場合、国の金額が全国一律になったとしたら、小谷の学校給食っていうと多分レベルが高くて、子ども達は給食が大好きで、自慢できる内容だと思うので、もし金額が国の規定の金額より高かったとした場合に、質が落ちたり国に合わせて「これだけしか提供しない」とかなったらちょっと寂しいかと思ひまして、小谷の学校給食のクオリティが維持できるような形で続けて行けたら良いなって思っています。

○村長 ありがとうございます。今の話の中にある法的なものは私もちょっと詳しくないですが、基本的に自治体に任せられる範疇になると思います。例えば所謂教育費を無償化しているのと同じようにいけると思っています。それと食育情報の提供は大切だと思います。しっかりやらないといけないと思いますし、オーガニック給食を提供するなら有償でも良いんじゃないかという意見も、選挙戦を行っているなかでお話を頂きました。そういうことがあるので、国がどういう形で、それからの制度設計でどうなるか分かりませんが、仮に村として別なカタチのものという範疇で考えることが出来るかな、というふうには思っています。特に村で色々作っている協働学舎とかのお米とかは、ほとんど無農薬

でやっているし、自分たちでしっかりと手植えしたり、そういったものを使って地産地消をしっかりと考えていけたら良いんじゃないかということも思っています。レベルが落ちることがないようにしっかりとしたいと思います。

実はもう少し違う話が出ていまして、これは参考までに聞いてください。私たちの年代は、例えば保育料は所得に応じてほぼ出していた状況があって、私は子供4人いますがかなりの負担をしていたんですね。それを戻せないのかという意見が出たこともあります。中にはそういう風に思う人もいたということもあります。過去の政策と今の政策は違うんですよと話をしてきました。そんなことも話にあがったことだけは胸に置いて頂けたらと思います。続いて松澤さんいかがでしょうか。

○松澤委員 ほとんど深澤委員さんに言ってもらったんですけど、自分も無償化には賛成なんですけれども、北安曇郡内など他でもやっているんですしたら小谷村も率先してやってもらえれば、もし小谷に移住してきたいという人たちにも、給食費無償化っていうことでしたら、やはり親の負担としては大分助かると思うので、若い人達の移住者も増えるんじゃないかなという希望もありますので、是非無償化を進めていただきたいと思います。

○村長 ありがとうございます。大北管内ではどこも今はやっていないということで良いと思います。さっきの話のように松川は意向がありますけど出来ていない状況ですし、大町は出来ていません。実は今回統一地方選挙で給食費の無償化を掲げた方は坂城町の山村町長は無償化を実現したいということで、報道にも出ていましたけど実際に訴えかけてきたので実現したいと仰っていました。他に立科や、朝日村はちょっと意味合いが違いますが、子育て世代を支援するというところで話が出ていました。今回は統一地方選では多くの候補者が子育て世代への支援をしていくと謳っていましたので、色んな形でやっていると思います。小谷村はほぼ、教育関係は進んでいる内容と思っていますが、そこにプラスして無償化をお願いしたいと考えています。片山さんいかがでしょうか。

○片山委員 無償化になることに対して、私の中ではちょっと引っかかるところがありまして、すごく助かる、そうなることで本当にありがたいと思う家庭も沢山あると思うので全然反対ではないし、そうなることは望ましい事だと思うんですけど、食べること、自分がものを作ったり農業をしていて出来上がってくる過程をみながら食というのを見つめたりするときに、無料だから良いのねとか、高校も授業料の補助してくれて払わなくて良いというのは本当に助かりますけど、じゃ、自分たちは授業料払っていないから子どもは適当に通えば良いのか、っていうものでもないし、そういうところは私はどうしても気になってしまって、給食費を払ってでも子供たちにそういうふうにはっきり考えて食べてもらいたいって思っている保護者がどれだけいるのかとか、無償になってありがたい保護者がどれだけいるのか、というのを知りたいと思うところもありますし、給食が無償になることで子どもたちの残食はないのかなとか、少しでも払うということによって無責任ではない、食に対してそういう気持ちをもって欲しいなっていうところがあって、手放しには嬉しいと言えないところが私の中には生まれてしまいます。こういう風にすすめて凄くいいことだとは思いますが、そこがすごい難しいなとも思っています。

○村長 仰っていることは良いことだと思いますし、そうだなと思います。例えばアンケートとってみるとか、食に対しておざなりにならないようにしっかりとやらないといけないと思います。それというのは、ちょっとちがうことなのかもしれませんが、学校給食なのか、家庭の教育なのかということだと思うんです。しっかりとやる以上は子どもたちに保護者にも伝えないといけないと思います。私もやる以上はしっかりと伝えないといけないと思いますし、食をおざなりにするようなことがあってはいけないと思います。

実際に作っている現場とか、米はどうやってできるんだということはですね、知らないようではいけないと思いますし、今も田んぼやっているとありますが引き続きやって欲しいと思いますし、そういう教育は忘れないようにしなければいけないと思います。確かにこどもの食に対する考え方をもっているかどうか、片山さんも深澤さんも、松澤さんも同じようなご意見だと思いますけど、しっかりと訴えかけるように、どうやってやるのか、それこそ総合教育会議で話し合えばよいと思いますね。アンケートを親に対してとるのか、子供たちにとるのかとかいうのも必要ですね。ちょっとそのくらいしか答えられません。

先ほど出たオーガニック給食はちょっと興味があります。どこまでどうするか、その辺はよく分かりませんが。卵とか、牛乳は流通が難しいかもしれませんが、少し高くてもそういうもの使っていくのは必要かもしれません。

○教育長 これまでも、先ほども答弁の話がありましたけど、多少の負担は必要だということを言ってきましたが、国がこういう方向に向いたことによって、それを反対してまで、国が無償化をやることについてまで反対ということは中々言えない部分もあり、先ほど話がありました国からこれだけ費用が出ているからその中でやれとか、食べる方も、どうせ無料だから、とかそういうことにならないように、今頂いたようなご意見を活かして、無償とはいえお金が掛かっていないわけではないので、その辺も知っていただくことはこれからも続けて行かなければいけないと思いました。

○片山委員 例えば、村の方の食材を使えたら、無農薬であったり有機肥料であったり作ってくれる農家さんから出来てくれば良いのかなとか、私は規模が小さいから無農薬とかちょこちょこ出来るんですが、学校給食とかかなりの量で、それを若い人たちは働いているし、高齢者の方がやるのはきついことかもしれませんが、そういう農家さんや、やってくれる人が増えてきて、食材を使うことが回って行けるんじゃないかと思ったりしました。

○村長 今、地産地消は進めているんですよ。例えば野菜とか。

○教育課長 宜しいでしょうか。今、農村生活マイスターさんとも何回か打合せさせていただいています。ただ、中々穫れる量と時期と、給食も予定がありうまくいかない部分もありますが、出来るだけ使いましょうということで、今年についてはとりあえず、ちょうど昨日1年生がジャガイモ植えを一緒にやりましたが、マイスターさんと一緒に収穫もして給食に使いましょうとか取組みを始めてはいますが、全部というのは難しい状況があります。

○教育長 時間が短くなってしまいすみません、この後、おたり学校園運営委員会があり、時間がありません。

○村長 わかりました。これまでの意見では、給食無償化についてはご理解いただけると理解しました。ただ、内容的にはおざなりにならないようにして欲しい、といった意見等はしっかりとやっていきたいと思いますし、議会にはこの旨を伝えていきたいと思います。ありがとうございました。

○教育長 忙しい時間になってしまいすみません。以上で終了させていただきます。

6 閉 会

(16 : 30)